

もっと知りたいふるさと

61

智識寺今昔物語

清源山智識寺の「大御堂」と「木造十一面観音菩薩立像」は千曲市内で最も古い建造物・仏像とされています。観音菩薩立像は昭和12年、国宝に指定されましたが、現在は国指定の重要文化財です。その他、長雲寺の「木造愛染明王坐像」(稲荷山)、「水上布奈山神社本殿」(戸倉)なども国指定の文化財です。

で、僧侶の住む寺院堂舎の総称です。これを御祈願所と定めて山号を「清源山」、院号を「花蔵院」、寺号を「智識寺」として仁王門と仁王尊(市指定の有形文化財)を寄進したといわれています。

現在の大御堂は、室町末期(1573年頃)に創建され、徳川時代には真田家代々の祈願所とされてきました。明治10年(1877)、上山田小学校の前身である山田学校が東国寺から智識寺に移転し、その後明治24年(1891)4月に現在の地に移転するまでの14年間、本堂を含め学校として使われました。



智識寺の大御堂

鎌倉時代、建久9年(1198)現在地に源頼朝が「七堂伽藍」を建立しました。七堂とは仏殿・法堂・三門・庫院・僧堂・浴室・東司(お手洗い)

大御堂の本尊「十一面観音菩薩立像」は信州随一の樺一本彫り立像です。平安末期の作とされますが、一説には行基作とも伝えられています。



重要文化財 本尊「十一面観音菩薩立像」

写真 千曲市教育委員会提供

昭和41年の松代発地震の折には、東京国立博物館に一時避難したこともありまし

智識寺は、かつて全国に多数の信者があり、関東方面には当山直参講も多数あって、春から秋にかけて各講中の参詣客で賑わいました。現在は地元地域の浄財により支えられています。アジサイ寺として有名ですが、近年紅葉も美しく見事です。

大御堂は昭和28年に昭和の復元修理を行いました。昨平成の復元修理で茅葺き屋根が新しくなり、郷土の尊い遺産として守り継がれています。

参考文献 『上山田町史』

『上山田の百年』 上山田 宮島信明

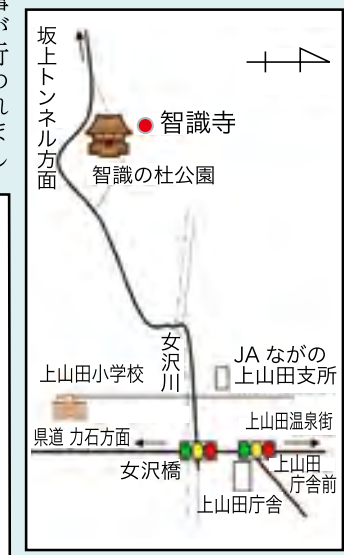
〈茅葺屋根修理について〉  
昭和53年の葺き替えから約40年が経過し、屋根が傷んできたため、平成29年の春から夏にかけて葺き替え工事が行われました。

葺き替えには阿蘇山・富士山産の茅約2000束が使われ、茅葺きの伝統を受け継ぐ京都美山の職人が腕を振りました。工事を終えた今、大御堂はかつての美しいたたずまいを取り戻しています。

上山田公民館



葺き替え作業の様子



もっと知りたいふるさと

62

羽尾の瘡守稲荷神社



連なった鳥居

「さらしなの里古代体験パーク」西側の明治新道を挟んだ堂城山の東裾にいくつもの赤い鳥居が連なっています。その鳥居をくぐり一段と高い場所にでると地元で「かさもりさん」と親しまれている「瘡守稲荷神社」があります。今年も、年2回の例祭（節分祭・春季例祭）が盛大に執り行われ、近隣からの多くの参詣者でにぎわいました。

また、月並祭（1日と15日）は、早朝6時に宮本組の役員により執り行われ、その太鼓の音とともに、近在の拠り所の神社となっています。

現在の「瘡守稲荷神社」として形態が整備されたのは、文政10年（1827）からで、天保6年（1835）に、伏見稲

祭神は、倉稻魂命（稲荷大神）を筆頭に、大國主命・太玉命・大宮姫命（大宮売神）・保食命の五社大神が合祀されています。

「神社縁起」には「天正年中頃羽尾筑前なるもの宮守を命ぜられ、後に諏訪の戦いに従い、戦場にて傷を負い大いに悩まされたが、稲荷大明神を一心に念じ、その結果、全快した。これより瘡守稲荷というようになった」と伝えられます。「瘡」とはできもの・傷のことで、かつては本殿の板壁に羽尾の民話で語り継がれている「泥団子伝説」「摩り石伝説」等の絵図が掲示されていました。何れも病平癒を願ったものです。現在の神社建物は、大正後期に建てられましたが、江戸時代以前の場所と建物については諸説あり、場所は合祀前の夫々の小社の所在地だったと推測されます。建物も社務所内に掲示の絵図から現在と同等の規模であったようです。



銅板葺きの屋根の本殿

時代とともに、信仰の形態も変わりつつある神社ですが、越年初詣でに始まり、節分祭のまえに行われる境内の注連縄張り替えは、役員と地域有志の一大行事となっています。中でも3本の大注連縄づくりは後継者を育て、地域の貴重な財産を継承していくためにも大切な場所です。

荷神社から正一位稲荷大明神の社号をいただいています。

これ以降、瘡守稲荷として信仰され、その社名故、一時は近郷花街からの参詣が絶えず、地元の人々から、養蚕の守護神、五穀豊穡の神様として崇拜されてきました。本殿祭壇裏の外壁には、今は安全のため網で塞がれていますが、小動物が出入り出来る円形の穴が開いています。これは、お稲荷さんに仕える狐の出入り口として設けられたもので、好物と言われる油揚げをこの入り口にお供えする習わしがありました。今となっては知る人も少なくなりまし

また、再建当初から趣のあった本殿の茅葺き屋根は、茅材の入手難等から昭和50年を最後に修繕が途絶えていました。由緒ある神社存続のため、平成18年に改修委員会が設けられ、同年12月に銅板葺きの本殿屋根の改修工事が終わり、今は落ち着いた風合いの本殿を見ることが出来ます。

その後にも、階段の手すりの設置等もおこなわれ、訪れる人々が地元の優しさや思いやりを感じられる神社となっています。

羽尾 北村主計



もっと知りたいふるさと

63 我が郷土の長野盆地(善光寺平)

長野盆地が誕生したのは、長野盆地西縁構造線の西側が上がり、東側が下がるという再活動が始まった約60〜50万年前と考えられている。盆地側がより低くなると、周辺の河川がそこに流れ込み、現在の盆地西縁部を中心にした細長い凹地が次第に形成され、発生初期の盆地を形成した。凹地は長野市から飯山にかけて形成され、豊野町付近が中心部となる。



姨捨 SA から善光寺平を望む

約40〜20万年前頃は西側の山地の隆起が更に続き、それに伴い盆地西縁部に複数の断層が形成された。これは西側山地が隆起するにつれて落差を大きく

くし、盆地の西縁部を明瞭につくり上げていき、階段状の地形が形成され地層も変化した。南郷層が堆積したのは、およそ20〜10万年前の時代である。この堆積後、西山山地は急激な隆起を始め、盆地より新しい丘陵群が形成された。この隆起運動により、西縁部の南郷層はいずれも盆地側へ傾いた。この隆起運動後に堆積したのが、現在盆地の両縁に分布する扇状地堆積物である。これらの大部分は、最終氷期(7万年前から1万年前までの)間に堆積した。なかでも河東山地の隆起運動は激しく、この時期に大量の粗粒堆積物を下流に供給した。

このように長野盆地は、西山山地の隆起運動と河東山地の傾動運動が断続的に行われて地形を形成し、堆積物が堆積しながら、現在の盆地が形成された。

昔から長野盆地の平坦部は善光寺平と言われ、北東から南西方向に40kmの長軸、中央部の最大幅が約10km、面積およそ300平方kmの規模を示し、日本における典型的な山

間盆地の一つである。周辺の山地は標高800m以上の高さを持ち、盆地内は標高315〜400mの平坦部が最も広い面積を占め、この盆地内を流れる千曲川は、盆地南端から北端までの流れが標高わずかに40m下がる程度に緩やかであり、千曲川沿いには、自然堤防や後背湿地からなる氾濫原が広がっている。

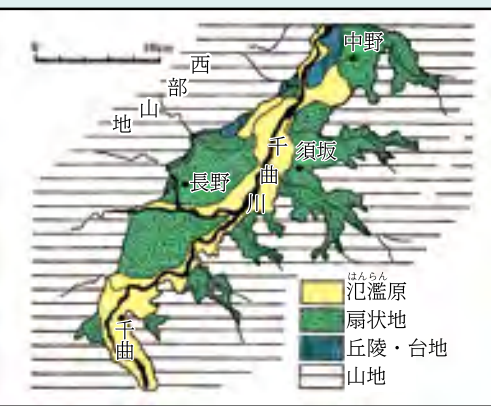
千曲市は、長野盆地の南端に位置し、面積は119.93平方kmである。長野盆地は、上高地を源とする梓川が、松本平で周辺からの河川を集め犀川と名前を変えて、善光寺平で本流の千曲川に合流し、大量の堆積物で扇状地を形成している。

一方、東縁部では河東山地からの尾根が、盆地に沈み込むように伸び、これらの尾根と尾根との間を埋めるように大きな扇状地が発達する。また、扇状地と扇状地の間には、低湿地(雨宮・清野他)が見られる。このような東縁部の地形はあたかもリアス式海岸を思わせる出入の激しい山麓線となり、直線的な西縁部と

は大きな違いが認められる。千曲川は、盆地南部では東側を蛇行して流れ、犀川と合流すると直線的に北東方面に向かつて飯山盆地に流れる。この千曲川の両岸には、氾濫原が広く発達する。氾濫原は主として自然堤防・後背湿地と河床とからなり、盆地の低湿地地帯を形成している。

昔からこれらの氾濫原地帯は、洪水の常襲地帯だったが、洪水のたびに河川が運搬した土砂を堆積した(横田・塩崎・屋代・雨宮・戸倉)。これが自然堤防や中州となり、弥

生時代から現在まで多くの人々が生活する場所となっている。八幡 宮澤 保徳



公民館報 ちくま No. 63 2018.8.1 長野県千曲市

手足をぶらぶらリラックス

5月26日(土)、東部体育館で東部公民館運営協議会が主催の分館役員研修会が開催されました。講師に青木芽里氏を招き、ヨガを体験しました。参加した皆さんは、脳と体を動かすことで、心も同時にリフレッシュしたようです。

特集 語り継ぎたい わたしの戦争体験

主な掲載記事

- 各館の活動報告…………… 2〜3
- 市民講座のお知らせ…………… 3
- 特集 語り継ぎたい わたしの戦争体験…………… 4〜7
- 短詩型文学祭作品募集 更埴地区文化祭のお知らせ…………… 7
- もっと知りたいふるさと…………… 8

もっと知りたいふるさと

64

稲荷山城と稲荷山村の誕生

「上杉景勝に神佑天助」

正親天皇より信濃の国支配を任された織田信長は武田氏遺領のうち、北信濃四郡を森長可に与え、海津城に在城させた。当時越後領主上杉景勝は、織田勢による周辺各地からの攻勢で苦戦し窮地に陥っていた。特に信越国境を越えて森長可軍5000は、春日山城目前の片貝、二本木まで侵攻していた。しかし天正10年(1582)6月2日、明智光秀の謀反により信長が本能寺にて自刃した。同月6日、悲報が届くと、森軍は直ちに海津に帰陣。同月11日、急遽西上した。これにより上杉軍の戦線は好転し、情勢が一変する。

「北信濃四郡への進出」

上杉景勝は領主不在の北信濃を経略すべく直ちに動く。かつての武田家旧臣等に、知行を宛行い鎮定を図る。千曲川流域の主城海津城に村上景国を配し、副将に屋代秀正を置く(直江兼続仲介か?)。対真田・北条・徳川・小笠原への備えのうち、特に小笠原

貞慶の侵攻に直ちに対処可能な前線基地として、左岸の要路に城砦の築造を算段した。

「城砦の築造と村の誕生」

千曲川西岸の当該地の東側には、旧河道の浸食崖が長く続き、微高地と微低地との比高は、およそ1.5倍位ある。また、西側後背地は氾濫原の湿地帯で洪水の常襲地であったため、川中島5度の合戦の戦さ場にもならなかった。自然堤防上の北端あたり、天当河原に僅か数軒の居住が伝えられている。築造について、「越後治乱記」に外堀(濠)を造るため、掻き上げをしたとある。防御面と併せて水利による地盤の安定化が図られたと推測できる。

当初は屋代衆の奇騎須崎三河守に下命された。須崎三河守を城主、二之丸小出和泉守、三之丸松田織部正等三将が守将であったと、当地には伝わっている。

天正12年(1584)中には城砦は整ったものと諸記録より窺える。周辺山城の利活用と一体化した兵站基地と言える。対小笠原備えの最前線の猿



現在の稲荷山城址の碑

ケ馬場衆(留守役250人半)は龍王城に常駐し、佐野山城小坂城へも番卒を駐在させた。城砦築造と併せて町割りを行い、近在住民を集め稲荷山村が生まれた。規模的には、現在の横町より北側中町、荒町が該当する。天正11年(1583)五日町裏に鬼門除けとして、小坂浄土屋敷より極楽寺を移した。文禄2年(1593)元町より柳町出口へ高札場を移す。繁栄と共に八日町ができ、南方へ発展する。その後一里山経由の大道が開削され、北国西往還(善光寺街道)ができ、後に宿場が移譲される。

「会津転封と其の後」

慶長3年(1598)正月、上杉景勝は豊臣秀吉より会津米沢計120万石へ転封を命じられ、同3月には移封が実施され、これにより上杉家の治政16年間は終わる。 ※小出家は移らず土着する。

※神官宮本伊豆守吉次は会津へ。 ※松田氏は弟に神官職を預け会津へ従う。

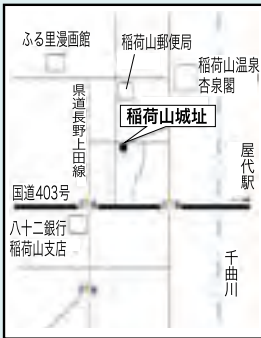
※飯綱社地内の稲荷社は後に米沢館山に移祀、須崎の稲荷として残存。

一旦は犬山城主石川光吉が預かるが、信濃四郡4万石が豊臣秀吉の蔵入地となり田丸直昌が海津城主となりその支配下となる。8月17日秀吉没す。関ヶ原戦役、大坂冬の陣、大坂夏の陣を経て完全なる徳川政権の確立に至る。元和元年(1615)「二国一城令」の



赤い部分は本丸跡地か? (安政年間検地図)

もと廃城となるが、既に前年に館は焼失していた。城跡は、代官見崎喜兵衛が管理していたが、其の後は松木家の占有となり、御除地として後世まで続く。松木家は本陣・庄屋・問屋等を務め、当町役職の中核として君臨した。 NPO法人稲荷山蔵の会 泉 光男



参考文献

- 「更級郡、埴科郡人名辞書」 『稲荷山四百年の歩み』 『花ヶ前盛明編直江兼続のすべて』

Advertisement for 'ちくま' (Chikuma) magazine, No. 64, dated 2018.10.1. It features a photo of a group of people hiking and a list of featured articles including '夏山ハイキング' (Summer Mountain Hiking).

# もっと知りたいふるさと

65

## 「雨宮之渡」詩碑建立始末記

私が詩吟を始めたのは当地に「鞭警肅々」の碑文があったからです。

昭和52年、田澤徳郎氏を会長に「第47岳風会雨宮吟同会」が発足し、私は平成11年十段位を取得することが出来ました。頼山陽(1780~1832)の「題不識庵機山図」は、詩吟の中で最も重要視されている漢詩です。

岳風流では、吟詠はすべて暗記して吟ずる厳格な決まりがあります。特にこの詩は、雨宮を生地とし、当吟同会では、「雨宮之渡」の歴史と碑文建立等の経緯を調べ吟詠に生かしてきました。後文はその時の記録です。



「雨宮之渡」の碑

戦前の海軍大学校では、必ず年中行事として「戦国時代の戦跡」の現地見学をしてい

ました。昭和11年11月、海軍大  
学校海軍少佐の高松宮殿下が  
一行と共に川中島古戦場を踏  
査されました。見学コースは  
いつも決まっていたようですが、  
この時は変更されて妻女山に  
登り、古い参道を長尾根越え  
で土口に下られました。  
連絡を受けた当時の雨宮縣  
村の安藤晴美村長と柳沢和恵  
校長が正装して急ぎ土口坂の  
展望所で殿下をお迎えしまし  
た。迎えた二人にお気軽に地  
図を片手に「雨宮之渡」の所  
在を尋ねられました。

関係者のなかでは、詩碑建  
立の想いがありました。当時  
の農村は不況で、繭1貫目  
(375キログラム) 2円50銭という安  
価で厳しい状況下でした。  
殿下が来られたことがきつ  
かけとなり、「鞭警肅々」を詠  
んだ江戸時代の詩人頼山陽  
直筆の書を刻んで、詩碑を建  
立しようと地元有志の機運が  
大きく高まりました。  
山陽は安芸藩(広島)浅野

家藩士で才高く学博で史論縦  
横、熱烈な上杉びいきであり  
ました。京都で家塾を開き、  
そこで、「不識庵機山を撃つ  
の図に題す」を作ってから今ま  
で約二百有余年の歳月が流れ  
ております。  
その詩の冒頭で有名な「鞭  
警肅々」は最も人々に親しま  
れており、詩はいきいきして  
天真流露躍如として、後世の  
維新の志士や青少年の血を湧  
かせ、士気を鼓舞したことは  
周知のことです。  
山陽の子孫の所在を広島市  
に照会したところ、曾孫の文  
学士頼成一氏が昭和12年まで  
広島市に在任していました。  
しかし当時は、東京日比谷図  
書館の要職にある旨連絡をい  
ただき、早速、頼成一氏に「鞭  
警肅々」直筆の所在について  
丁寧に伺いました。

早々に、頼成一氏から「昨年  
西日本熊本県天草で、曾祖父  
頼山陽の『泊天草洋』の『雲  
か山か呉か越か』の詩碑が建  
立されており、この度、東日本  
信州の川中島に「鞭警肅々」  
の詩碑を建立されることは、  
血のつながる者として真に感  
銘に堪えません。ご照会の直

筆は、山形県米沢の上杉伯爵  
家と東京長尾家と大阪有田家  
所蔵の三幅だけで、他は偽物  
が多く出回っています。自  
宅には遺墨が何も残っており  
ません。なお、署名は上杉家の  
軸は『のぼる』の実名に改まっ  
ています」との返書をいただ  
きました。  
また、長尾家の軸は  
「山陽外史」の雅号で、  
最も躍動した会心の筆  
との添え書きもありま  
した。



なかなかとれないよ～  
10月14日(日)に「第6回桑原ふれあいまつり」  
が開催されました。今年は4年振りの晴天のもと、  
大勢の方が参加し、楽しいひと時を過ごしました。  
写真はミニ運動会での「食袋の秋」です。  
文化とスポーツの  
秋を満喫!

《主な掲載記事》  
各地区文化祭…………… 2～4  
秋のスポーツ大会…………… 5～6  
リレーエッセイ・市民講座・  
成人式のお知らせ…………… 7  
もっと知りたいふるさと…………… 8

早速、長尾家秘蔵の  
軸物の撮影の許可をい  
ただき、詩碑は皇紀  
2600年(昭和15年)  
12月、雨宮の地に建立  
されました。翌春、杏花  
爛漫の日、詩碑の除幕式



が盛大に執り行われました。  
詩碑建立の建設資金は雨宮区  
民1戸平均50銭及び有志の浄  
財によって賄われました。  
なお、「雨宮之渡」の題字は、  
海軍中将正四位勲二等小林宗  
之助氏により書かれました。  
※注 不識庵は上杉謙信で、  
機山は武田信玄  
半田裕美

もっと知りたいふるさと

66

早咲きの「魯桃桜」

寒い寒い時期を過ぎ、待ち遠しい桜の季節がやってきます。たくさんのお花の中で「魯桃桜」という名をご存知でしょうか。3月初め屋代の国道傍にあるレストラン庭に咲く桜。この花に会うと春を実感します。これが魯桃桜です。



魯桃桜 (平成29年屋代中学校卒業式)



小山海太郎氏

たこのこと。何とも寂しい限りです。次にこの花にまつわる話を書きます。原産地は、中国(旧満州)の熱河からモンゴル陰山山脈地方で、山桃の種類であるといわれています。そういえば種は、桃の種を小振りにした形。長野県にもたらされたのは、日露戦争から帰った軍人が凱戦記念に持ち帰ったものらしいと伝えられています。ところで、旧県立長野図書館が昭和4年に竣工しました。当時の館長乙部氏が、庭に珍しい花木を植えたものだとか、友人の小山海太郎氏(東御市出身の博物学の先生)に相談します。海太郎氏はあれこれ思案した結果、昔見て印象的だった桜井村桜井尋常小学校(現佐久市)の中庭にあった桜のことが頭に浮かび、これだとして早速小学校から接穂を取り寄せました。植木専門業者に接木を依頼し、7本を旧県立長野図書館へ贈りました。「魯桃桜」という名前



魯桃桜が咲く旧県立長野図書館前景

は、海太郎氏の命名によるのですが、大変成長が早く、たちまち長野市の春を告げる花として有名になったのです。ところで我が千曲市との関係ですが、屋代で花木を扱う西村さんから伺った話です。昭和28年頃、長野市の花専門業者から魯桃桜を花木として扱ってみることを勧められました。そこで図書館にお願いをして接穂から接木し、どんどん殖やしました。更埴地区では、一時西村さんを含め20軒もの方々が栽培に関わるほど盛んでした。昭和30年前後といえ、戦後10年以上が経過し、生活も安定して来た時期です。生花として、しかも早咲きの桜です。早咲きというので、人々

かりでなく、関東・関西・北陸地方からも注文があり、活況を呈しました。人気が出るに従い、埼玉県の専門業者がカタログで取り上げるまでになり、一層全国に拡がりました。例えば、四国の花の業者まで取り扱うようになったということです。

この花の売りは、やはり「早咲き桜」ということです。桜の花は、「春化」といって低温刺激による休眠解除(桜の開花のためには、寒い期間が大切になる)の働きを応用し、一定期間魯桃桜の花木を寒さに晒し、1月から2月にかけてビニールハウス内に入れ、しばらく暖房をかけて花を咲かせます。つまり、早咲きの早咲きということ、人々

から珍重されるわけです。しかし、この桜の将来は、栽培者が減少しているため必ずしも明るくはないようです。それが気がかりです。桜の名称には、人の関わりや歴史の重なりがあり、先人の努力や継続による文化遺産ともいわれます。花の美しさだけでなく、人との関係も価値があります。それらを知ること、さらに、この桜の良さを樂しむことが出来るのではないのでしょうか。

参考『魯桃桜と図書館』

『県立長野図書館30年史』 小山日出夫著

杭瀬下 青木 聡

公民館報

ちくま No. 66 2019.2.1 長野県千曲市



祝！成人おめでとう

1月13日(日)東野文化会館あんずホールにおいて、平成31年千曲市成人式が開催され、対象者660名中461名の皆さんが出席しました。写真は、舞台から自撮りをする実行委員の様子です。「式典」では、新成人代表2名が誓いの言葉を述べ、続く「成人の誓い」では小中学校の思い出のビデオ上映やビンゴ大会があり、大いに盛り上がりました。

(主な掲載記事) 成人式実行委員あいさつ... 誓いの言葉... 新成人の皆さんに贈る言葉... 成人式フォトギャラリー... 第23回更埴地区短詩型文学祭 入賞作品... 他... もっと知りたいふるさと...

もっと知りたいふるさと

67

上山田の六神社

旧上山田町には長野県神社庁に登録されている神社が6社あります。

①波閉科神社は、延長5年(927)に制定された延喜式の「神名帳」に登録されている古社で、社格は郷社になります。祭神は「天照大神」「豊受大神」「日本武尊」の三柱が祀られ、境内末社として、宇佐八幡社・住吉社・蚕神社・天神社・金毘羅社・稻荷社が奉



①波閉科神社



②八坂神社



③三本木神社



④宇留司原神社



⑤庄内神社



⑥清水神社

他に温泉地区で祀っている水天宮があります。また、境内に氏子の方々の氏神を祀る石祠も多数あります。氏子地域は女沢川の沢北で、八坂の大鹿・弥勤寺地区・中央地区・城腰地区・温泉地区になります。

②八坂神社(沢南神社)は八坂地区にあるお社で、祭神は「建御名方神」「九頭竜神」「秋葉神」が祀られ、末社として津島社・神武天皇社・天満社

④宇留司原神社は漆原地区にあるお社で、祭神は「建御名方命」「八坂刀売命」が祀られ、末社として天神社・秋葉社・石尊社・蚕神社・伊勢社、地域内に堤ノ神・山ノ神をは

が奉祀されています。

③三本木神社(諏訪大明神・諏訪社)は三本木地区にあり、祭神は「八坂刀売命」が祀られ、末社は天神社・秋葉社・津島社・水神が奉祀されています。

④宇留司原神社は漆原地区にあるお社で、祭神は「建御名方命」「八坂刀売命」が祀られ、末社として天神社・秋葉社・石尊社・蚕神社・伊勢社、地域内に堤ノ神・山ノ神をは

じめ神々を祀る祠が多数あります。

⑤庄内神社(新里神社)は新山地区のお社で、「建御名方命」「八坂刀売命」「誉田別命」「三筒男命」「大日靈命」が祀られ、末社は飯縄社・山ノ神・天神社・伊勢社が奉祀されています。

最後に⑥清水神社は力石地区のお社で、延喜式内社の論社とされています。祭神は「豊宇気比売神」「建御名方命」「事代主命」が祀られ、合祀の社として金刀比羅社(崇徳天皇・天神社・蚕影神社・諏訪社)があるといわれています。

また、地区内には奥津神社・村上青麻神社や氏神様としてのお社が幾つか奉斎されています。また、千曲川の洪水の

害がないようにお祀りされた水天宮が三本木地区・力石地区にも祀られています。各社とも古来よりその地域をお守りいただくため、その地域に居住する氏子の皆さんが奉斎し、維持管理を行っている歴史あるお社です。これからも大事にしていきたいと思えます。

『更級郡誌』と『埴科郡誌』では、寺社仏閣の様子を描いた絵図をみる事ができます。地域探訪の参考にしたいだければ幸いです。

上山田 佐竹 盛道

参考文献

『上山田町史』

『更級郡誌』

『埴科郡誌』

公民館報

ちくま

No. 67  
2019.4.1  
長野県千曲市



素敵な音色にうっとり

1月24日(日)、上山田文化会館ホワイエ特設会場において上山田公民館女性部主催の「ふだんぎ演奏会」が行われました。

112名の方に来場いただき、「マンドリンアンサンブル アニマート」の皆さんの優しく繊細な音色を楽しみました。

〈主な掲載記事〉

公民館学習活動実情発表会… 2～3  
各地区文化祭・市民講座… 4  
平成31年度各公民館行事紹介… 5  
成人講座受講生募集… 6～7  
もっと知りたいふるさと… 8

もっと知りたいふるさと

68

三島神社

古代体験パークがある羽尾三島平は須坂境で6〜8メートルの段丘となっています。三島神社はこの段丘上部の字上三島にあって、神社は本殿と覆屋・拝殿が一連造りです。

延宝8年頃の「北村護家文書」に「三島三頭大明神」と記されています。これは、大山祇命・木花開耶姫尊・瓊杵尊瓊の「御神像」のことです。残念なことに2体は盗難に遭い、今は大山祇命の御神像となぜか仏像（大日如来）が安置されています。

祭神は、海神・山岳神・武神・農神として崇敬されましたが、養蚕が盛んになると養蚕・子授け・安産を祈願する対象となりました。

神社は、度重なる火災で古き物は失われ、わずかに残さ



三島神社本殿

れた棟板から社記が伺えます。「八幡神社神宮寺（清水家）と放生会」

安永6年（1777）の「清水家文書」に江戸幕府から八幡神社神宮寺に100石の朱印地が安堵されたとあります。その地は、氏子十三方村の内（羽尾代・志川・郡）の村です。このことは「放生会」に関して該当村に特権を与えられたかについては不明です。

延宝8年（1680）年、14日の放生会を催した「清水家文書」に、七ヶ郷十三方村の氏子が勢揃いし、羽尾村の総代が火縄を花火師に渡す儀式が記載されています。席の序列は、「先案内」五町世話人・八幡寺高張提灯（神宮寺）・神主高張提灯（宮司代理）・四番



三島神社鳥居



大ケヤキ

目に羽尾村の「燈籠」（羽尾・仙石・須坂）です。以下十ヶ村は高張提灯であって「羽尾村のみが燈籠」です。この日、三島神社境内は八幡宮寺に合わせ、羽尾上三島の氏子にて奉燈がされていました。この形は明治初頭まで続きました。

明治政府の「神社登記政策」により、明治41年から42年に、冠着神社と大字羽尾の村社雑社五社と須坂村の浮洲社（須坂神社）を合祀して冠着神社としました。そして郷嶺山へ6社の祠を押し里宮としました。

合祀後、9月14日の放生会は廃止し、代って同日に、武水別神社の神主側で仲秋祭として継続することになりました。これが今の「トントン」です。

冠着神社では、9月23日を大字羽尾（四区・五区）の秋祭りに定め、郷嶺山冠着社里

宮より三島神社にむけて両区の祭典取締りを先頭に同地区祭典係の行列が繰り出します。【樺の年輪が歴史を語る】

三島神社境内に廻り6・8メートル、高さ24メートルのケヤキの巨木（千曲市保存木57号・58号）が2本あって、昭和46年、腐枝伐採の折、研究用に切断しておいた材の年輪を計測したところ、樹齢507年で西暦1460年頃（室町時代）植樹されたと判明しました。時代背景から見ると、周囲の名所・地形・由緒等と、「文政9年羽尾村絵図」の説明の中に「三島城古城跡三島組」の記述があり、三島神社の前身は一本松峠への玄関口を警備する出城であった可能性があります。

参考文献  
戸倉史談会誌  
「とぐら」11号〜13号  
戸倉史談会 大橋 静雄



もっと知りたいふるさと

69

「探し歩記」もし現代の芭蕉が八幡を歩いたら…

姨捨サービスエリアのラーメン

松尾芭蕉が更科の里、姨捨の月を観たいと思い、信濃路の旅に出たのは、江戸時代の前期、元禄元年（1688）。門人「越人」を伴い、岐阜から木曾路を経て、この地に向かいました。中山道洗馬宿に着いたのは、8月14日。十五夜はもう明日です。中山道からの脇道、善光寺街道で姨捨を目指して、深夜零時すぎ徹夜の覚悟で洗馬宿を出ました。くしくも、60<sup>キロ</sup>の行程を18時間踏破。夕刻には猿ヶ番峠を越え、姨捨での中秋の名月鑑賞することができました。

そこで、現代の芭蕉さんなら、更科の地をどのように歩いたのか、タイムスリップして…



姨捨サービスエリア

「越人君、あそこの不夜城のように光輝いているのはなんじや」

「先生、あれは『姨捨サービスエリア』です」

「ああ、もうじき姨捨の月に巡り逢えるんじや。それにしても腹がすいたわい。何か食えんかのう？」

「先生、あそこにフードコートなるものがあり、食堂がありますよ」

「そうか、信州ならやはり更科蕎麦だな」

「先生、蕎麦よりもラーメンが表看板ですよ。地元味噌を使っていてるそうです」

「なに、みそラーメン？初めて聞く名前だが、食べてみるか」

「先生、うまいですよ。やや甘い味噌味ですが、濃厚な鶏ガラスープとマッチし、喉元を通ると深い味わいです。麺は太めの縮れ麺で、しっかりとスープに絡んでいます」

「ポリウムもあり満足じゃ、次はいよいよ『長楽寺』だな」



長楽寺

長楽寺 俳塚

「越人君、やっと姨捨の月を観ることができたね」

「ええ、感激です。それにしても、『オバステ』なんて、変な名前ですね」

「昔の伝説を知らんのかね。ああ、一句思い浮かんだよ。」

「俳や焼ひとり泣く月の友 どうかね」

「すばらしい、月をめどるばかりか、中秋の寂しさも伝わってきますよ」

大雲寺

「先生、念願の姨捨の月、ついに観ることができましたね」

「さすが、古来からの言い伝えの地、しかと感じいることができたよ」

「さて、次は『善光寺』ですか」「それもそうだが、ゆつくり更科の里を歩くのもいいな」

「先生、ここらの田んぼはみんな小さく、そしてかまぼこのような形をしていますね」

「越人君、これこそ田毎の月といわれる棚田なんだよ」

「姨捨から峯を歩いてもうすぐ『桑原宿』ですよ」

「おや、石垣の立派なお寺が見えてきたね」

「参道の入り口に『大雲寺』と案内札がありますよ」

「おお、寺の前の池には蓮が生えているぞ。夏にすればさぞかし見事な風景だな」

「先生、桜もたくさん植



大雲寺

わっていますね」

「そうか、『大雲寺』か。桜も有名と聞いている。いつか、桜の時期にも来てみたいものだね」

芭蕉は、15日に姨捨で月を愛で、翌16日は『善光寺』を訪れ、更科の里（今の真島あたりか）で十六夜の月、そして、浅間に向かう途中坂城で十七夜の月を愛で、江戸に向かうのでした。

さらしなや三よさの月見雲もなし 越人

（更科紀行）からの創作です。）

八幡 唐木田恵実子・本山 太い子

（写真 信州千曲観光局）

公民館報

ちくま

No. 69 2019.8.1 長野県千曲市



旬の食材をおいしくいただきます！

6月5日(水)から八幡公民館で成人講座「男の料理教室」が開催しました。旬の食材を使って作る料理は「和食」。簡単にヘルシーなメニューです。現役世代や退職後の方々が鈴木先生の指導のもと、毎月3品ずつパーティーを増やしています。

【主な掲載記事】

- 各館の活動報告…………… 2～3
更埴地区文化祭のお知らせ…………… 3
特集 語り継ぎたいわたしの戦争体験…………… 4～7
もっと知りたいふるさと…………… 8

特集 語り継ぎたいわたしの戦争体験

もっと知りたい  
ふるさと

70

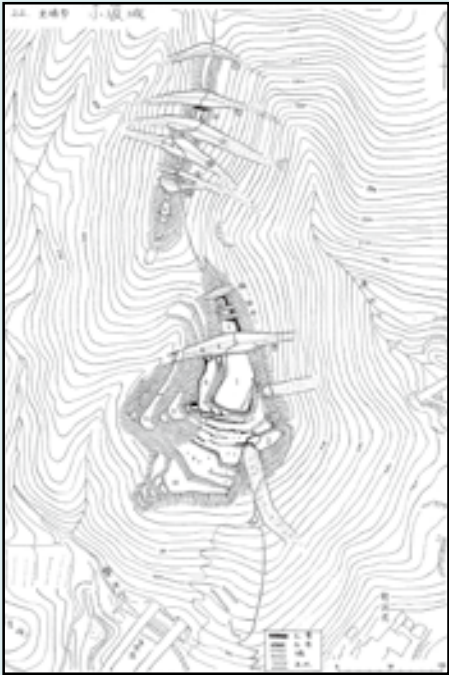
千曲市指定文化財  
「豪族居館型山城」  
小坂城跡の今昔

はじめに  
桑原地籍には39の遺跡があります。旧石器時代の佐野山遺跡、縄文時代の小坂西遺跡や鳥林遺跡、弥生時代から中世の桑原遺跡群、塚穴古墳に代表される墓など各時代の特色ある遺跡が数多く存在しています。城跡では龍王城、佐野山城、小坂城・青柳城(麻績)などの山城群が確認されています。

われまず。現在の龍洞院あたりに根小屋を築き、山城と一体となった典型的な豪族居館型山城です。

小坂城の成立  
康正年間(室町時代1455~1457)に桑原氏により築城された山城であるとい

戦国の世天正12年(1584)、上杉景勝により稲荷山城が築城され、景勝は西方の小笠原氏を警戒するため、小坂城築城から100年近く後の天正年間に大改修されたと考えられています。これが今に残る小坂城の姿です。城からの眺望がきくことから山城間の伝達手段「のろし」をあげるには絶好の場所であったと思われま。稲荷山城は小坂城を改修するために築城されたものと推測されています。



小坂城郭跡



小坂城跡の標柱

小坂城跡の現状

築城あるいは改修された当時の遺構が良好な状態で保存されており、かねてからの地元の要望もあり平成27年4月、千曲市指定文化財に指定されました。

史跡指定範囲は南北600m、東西200mに及び、指定面積は3万5000平方mです。

主郭を中心に郭群・堀切・土塁・石垣積みなどで防御施設が構築されています。

小坂城跡からは冠着山を正面に坂城町、右手には姨捨、左手には松代海津城、眼下には千曲市内が一望できます。しかしながら樹木が生い茂

る夏季は眺めることができません。冬季には枝葉の間からかろうじて見ることができま

文化財の保護・保全に関心を  
持つて協力をしてまいりたい  
と思ひます。  
稲荷山公民館長  
中山 洋一

おわりに

祖先が長きにわたり護ってきた地域の歴史や文化財は、今任んでいる私たちの宝であり誇りでもあります。これからの歴史の伝承、文化財の保護は地域の皆様のご理解とご協力が不可欠です。今後とも

参考資料(地図を含む)  
「千曲市文化財センター文化財指定書」



公民館報

ちくま

No. 70  
2019.10.1  
長野県千曲市



自然の偉大さを間近で感じました!

7月27日(土)、上山田公民館主催の「市民ハイキング 夏山探検隊」に49名が参加しました。写真は旭山沢コースに参加された皆さんで、後ろの太木はイチイの「トガの親木」で樹齢約400年です。

特集 楽しかった  
夏山ハイキング

《主な掲載記事》

特集 夏山ハイキング	2~4
夏休みの思い出	5
リレーエッセイ・サークル紹介	6
わがまちの自慢	
上山田・更地・戸倉文化祭のお知らせ	7
もっと知りたいふるさと	8

もっと知りたいふるさと

71

石井の手児

人皆の言は絶ゆとも埴科の石井の手児が言な絶えそね(万葉集卷十四3398相聞)大意・世の人すべての言葉

の往き来は絶えようとも、埴科の石井の手児の言葉はどうか絶えずに寄こしてください。

十代の頃から、父に倉科に万葉歌碑があることは何度か聞いていた。高校の国語教師だった父は、自分でもアララギ派に属し短歌を詠んでおり、「万葉集」については二松学舎大学時代の父の恩師である森本治吉先生の万葉集研



石井の手児の万葉歌碑

究のことを話してくれていた。その代表的著作の『萬葉集の芸術性』(昭和16年・修文堂)は今も私の書庫に収められている。

大学1年の頃であったと思う。私は倉科の石杭という地籍にある「石井の手児」の万葉歌碑を自転車で訪れた。暑い夏の日で、蝉時雨の降る午後であった。

それから約半世紀後、私も短歌を始め、短歌結社「綱手」の主筆であった田井安曇先生に誘われ、指導をいただいた。田井先生は私が教員生活で最後に赴任した飯山北高校の卒業生で、統合飯山高校の新歌を作る際、作詞をお願いした縁から師弟関係が始まった。父はすでに亡く、

田井先生も彼岸に旅立たれた今、私は「石井の手児」を再び訪れたいという思いが募った。晩夏であったが真夏のような暑さであった。

大日堂園地の一角の泉のほとりにその歌碑は変わらずに佇んでいた。大日堂は寛文13年(1673)に、松代城初代城主真田信之の次女康子が



大日池と万葉歌碑

如來を祀る堂として建立された。「石井の手児」の歌碑は、松代藩第6代藩主真田幸弘のお抱え歌人学者の大村光枝一門が1700年代にこの大日堂の泉のほとりに建立したと伝えられている。

「石井」が転化したものではないかという「石杭」という地名。この石杭にある大日堂の歌碑が時を経て文字が読みにくくなってきたとの思いや、もっと多くの人にこの万葉の歌碑を見てもらうには人が集まる場所がよいのではないかとこの思いから、平成3年(1991)、倉科区民によってこの歌碑は新しい意匠を施されて倉科公民館に建立された。そのとき関わっておられた原利夫氏によれば、その中心となったのは宮下信勝氏、揮毫は杉本なほみ氏であっ

た。新しい「石井の手児」は黒御影石の立派な歌碑である。眺めていると、文化遺産をしっかりと未来世代に引き継ぎたいという倉科区民の高い志と熱い思いが伝わってくる。

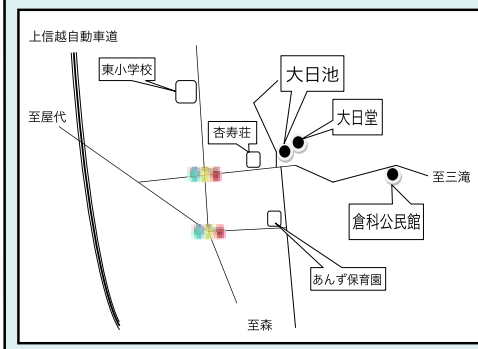
ちなみに、大日堂園地には西行の歌碑もある。信濃なるあかしの松のありながらなそくらしな里といふらむ

政治動乱の中、世を捨てて旅を続けた西行の寂寥感溢れる歌に比して、「明科」と「暗科」とも読めるこの歌には何かユーモアが感じられる。

千曲市内には、「万葉橋」という名の橋もあり、紹介し

た歌碑の他にも万葉の歌碑が多くある。万葉の歌は、おそれからか芸術性豊かな千曲市によく似合う。

土口 米澤修一



公民館報 ちくま No. 71 2019.12.1 長野県千曲市



心を合わせて!

10月6日(日)に「信濃山地区市民運動会」が開催されました。毎年恒例の行事となりましたが、今年も小雨のあと天候も回復し、2年ぶりの運動会を楽しみました。写真は「わかで競争」です。

文化とスポーツの秋を満喫!

〈主な掲載記事〉

- 各地区文化祭..... 2~4
成人式のお知らせ..... 4
秋のスポーツ大会..... 5~7
もっと知りたいふるさと..... 8

もっと知りたいふるさと

72

72 植生の地名「小字」について

飛鳥時代大化2年(646) 全国が畿内7道に区分され、東山道に科野国が成立。郡制により伊奈・諏訪・筑摩・安曇・更級・埴科・水内・高井・小県・佐久が置かれ、その下に50戸で編成された郷を設置し、埴科7郷の一つに舟山郷が生まれた。

埴科郡は、10郡の中で最も面積の狭い土地ながら人口密度が高く、西暦2000年頃より農耕・漁労に従事し生活は豊かであった。

舟山郷は、北に粟狭神社が鎮座し、千曲川の河礫地帯で度々の洪水によって沃土が堆積、住民に恩恵をもたらした。主な小字名はこの土地を舞台に生きた人々の心と姿、生きる智慧、郷土を愛する人達の

象徴になる種々のメッセージを地名に残してくれた。 埴生地籍の小字名を一部列挙する。 <寂蒔地区> 中島・大土腐・高河原・清水・小土腐・越上り・土腐尻 <鑄物師屋・新田地区> 舟山・柳原・向柳原・前久保・土手内・堰尻・中村浦・堰口・堀畑・清水・中島・側測・土井田・柳原下・東上川原・西上川原・小滝・土手外・下土合・上土合・上向川原・大割・下向川原・尾米・東林坊 <桜堂地区> 尾米 <杭瀬下地区> 見崎・屋敷・古屋敷・尾米・高河原・村浦・北村浦・車屋浦・升ノ浦・堂河原



埴生地籍の地図 (『更埴市史』第一巻より)

埴生地籍に比べ屋代田圃は用水の確保に大変な苦勞をし

てきたが、前述した小字は用水の心配は全く無く稲作や畑作りに勤しむことができた。また屋敷は住居として最適であったことを示している。中島は満水時でも水没することなく、清水は飲料水として用いられた場所として、また川原、河原は流水があったことを示し、東林房は水防施設として築造されていた。

しかし、前述した沃土は住民に苦難も与えている。記録をたどると仁和4年(888)佐久より北へ六郡の人家が流出したとある。また天文12年(1543)から明治の初期にかけて、300年間の洪水の記録を見るとおよそ2年半に1回の割合で襲っている。寛保4年(1742)「戌の満水」については多くの人々に語られている。為政者が水防対策に取り組んだ最たる施設が松代藩の佐久間氏によってできた「不崩の土堤」、坂城の「常山堤」、寂蒔上町集会所横の「寂蒔水除土堤」として残っている。

最後に「戌の満水」からの教訓として、台風の前線に注目したい。南の洋上で発達した



寂蒔水除土堤

台風はほとんど九州を直指して北上するが、「戌の満水」時には東経135度から140度の間を北上している。令和元年の台風19号も10月10日の天気図を見ると同一コース。これまでは100年に1度の災害と想定していたが最近は全く違っている。現在の千曲川の右岸の海拔

は364と表示されている。千曲川の関係で道路が上っているが、戦前の測量図には362.2でその東の新庁舎前交差点は359.4、更に東に向かつて船山通り交差点が361.2、中村新道の起点(小島地籍)が361.8ととなっている。それぞれ千曲川の堤防より低いことがわかる。 今後も台風19号並みの雨量が、近い将来襲来することは充分考えられる。 舟山郷成立後の人々によって千曲川の地形が現在の小字として残っている。

【参考文献】 『更埴市史』第一巻・二巻 『千曲川の今昔』『信濃の歩み』 打沢 牧 忠男

公民館報

ちくま

No. 72 2020.2.1 長野県千曲市



祝！成人おめでとう

1月12日(日)、上山田文化会館において、令和2年千曲市成人式が開催され、対象者659名中481名の皆さんが出席しました。 上の写真は、成人式実行委員の皆さんです。 『式典』では、新成人代表2名が誓いの言葉を述べ、続く「成人の集い」では小中学校の思い出のビデオ上映や抽選会があり、大いに盛り上がりました。

主な掲載記事) 成人式実行委員長あいさつ 誓いの言葉 2 新成人の皆さんに贈る言葉 3 成人式フォトギャラリー 4~5 第24回更埴地区短詩型文学祭 入賞作品 他 6~7 もっと知りたいふるさと 8

もっと知りたいふるさと

73

郷土史家 中島惣左衛門先生

「我によって立て、我によって進め、左右を見ること勿れ、世の意見輿論に盲従する勿れ、型に盲従する勿れ……。」という言葉があります。

この言葉は、中島惣左衛門が昭和2年(1927)5月発行「埴南会報」10号に寄稿した「嚙語」の中の一部分です(嚙語とは『広辞苑』の中に、うわごと・ねごと・たわごととあります)。

中島惣左衛門は、明治17年(1884)更級郡上山田村新山に生まれました。

明治31年組合立上山田高等小学校を卒業し、翌明治32年、15歳で上山田尋常小学校准訓導(准教員)になりました。

その後、長野県師範学校で学び、埴科郡坂城尋常高等小学校の訓導になりました。訓導としては、松本女子師範付属小学校、東筑摩郡塩尻尋常高等小学校に勤め、大正5年(1911)27歳で南佐久郡穂積尋常高等小学校長(現南佐久郡佐久穂町佐久穂小学校)となり、南佐久郡中込尋常高等小学校長、八幡(現千曲市)尋常高等小学校長を歴任

しますが、大正13年(1924)3月、40歳で同小学校長を退職、4月、組合立埴南農蚕学校(現県立坂城高等学校)の教諭に転じました。

尋常高等小学校長から農蚕学校教諭へ転じた理由については詳しくはわかりませんが、冒頭の「嚙語」から一端を伺うことができます。というのは、明治時代に確立された形式的教育に対して大正デモクラシーを背景に自由主義教育が主張されるようになり、この相容れない考えの中で悩んだ末に転身を決意したのではないかと言われています。

郷土史家中島惣左衛門の功績は、昭和38年(1961)発行の『上山田町史』の編纂です。



中島惣左衛門先生 (出典『上山田の百年』)

古文書にあたり、現地を訪れ、古老の話を聞き、納得するまで調査研究をした3000ページにも及ぶ資料を編纂主任として町史にまとめました。当時の教育委員長佐竹盛富氏は、郷土愛に満ちたこの町史について序文の中で「私もこの町をどのように打ち立てていくかの課題について示唆してくれる第一資料はこの上山田町史……」と述べています。「町を打ち立てる」という今日的な課題に対して、中島惣左衛門はすでに卓見し、その思いを町史にこめていたのです。

残念なことに中島惣左衛門編纂主任は忽焉として昭和36年(1961)12月29日、77歳の生涯を閉じました。

自己に向け「人間は終生勉強である」と語ったことを実践した人でもありました。また、郷土愛から生まれた歴史の研究は、徹底した調査研究に基づき起稿し、熱心に町史の編纂に取り組んでいる姿に、地域の方々は大きな感銘を受けたことと思います。

さらに、父を背負ってお参りに行った知識寺の傷みが激しく、取り壊し寸前となったのをくい止めたのも若いころの惣左衛門でした。

研究者として、教師としてのあり様等々を通して、地域の活性化への卓見など人間中島惣左衛門に学ぶことの多さや功績は、枚挙に遑がありません。

せん。故郷の偉大な人物を誇りに思い、また、歴史深い故郷を再発見できたことに感謝しつつ、中島惣左衛門の紹介を終わります。なお中島惣左衛門が残した膨大な歴史資料は千曲市文化財センターに保管されています。

上山田 山崎 好一

参考文献等 「大橋幸文講演集」(前坂城町教育長) 坂城町公民館報379号(大橋幸文寄稿)

『上山田の風土』『上山田町史』『上山田の百年』

公民館報

ちくま

No. 73 2020.4.1 長野県千曲市



最後決まったね!

2月8日(土)、埴南山公民館の学習活動実績発表会が盛大に行われました。展示の部は3日から素晴らしい多くの作品を展示し、多くの皆さんにご覧いただきました。写真は舞台発表の部の記念会による「すずめ踊り」です。

〈主な掲載記事〉

- 公民館学習活動実績発表会... 2~3
各地区文化祭・市民講座... 4
令和2年度各公民館行事紹介... 5
成人講座受講生募集... 6~7
もっと知りたいふるさと... 8

もっと知りたいふるさと

74

温泉の開祖 坂井量之助

をかかえての開湯であった。

北国街道下戸倉宿の下の酒屋坂井家は素封家であった。分家の坂井家から本家の養嗣子となった坂井量之助(1859〜1905)は16歳だった。器の大きい量之助は家業の酒造業に従事しながら事業欲に燃えていた。

柳沢和恵氏が著した「温泉の開祖坂井量之助翁」より伴野氏の記述の部分をおのおり引用する

興廃この一戦にありと、坂井氏は自ら第一線に立つて男女の夫婦が「エンヤラサ、ヨイトコマカセノエンヤラサ」音頭面白く太綱を引つ張って、矢尻のついた3インチの鉄管を打ち込む。

明治19年、27歳で県会議員に当選した量之助は、冠着山入会権紛争の調停に力を尽くした。明治17年2月羽尾村に対して入会五か村(千本柳村・内川村・上徳間村・若宮村・須坂村)間の深刻な入会権の争いであった。その後、自由民権運動に関して収監された量之助を五か村の人々は助命嘆願を行い、恩に報いた。さらに宿駅制廃止、信越線の開通などでさびれた下戸倉村を元に戻したいと温泉の開削を進めた。戸倉温泉は明治初年(1868)発見された。

「組合製糸競進社」も起業した。県内で最初の事業であった。さらにこれらの事業で傾きかけた坂井家の家計を興そうと、越後・新津町外金津村仇坂付近の石油鉱を手に入れ掘削をはじめたが失敗であった。

場所は、若宮村・下戸倉村、上山田村の三村境界付近の川原であった。明治26年、34歳のとき長野県の許可を受けて宇向島川原で仮開湯式をあげた。しかし、千曲川の洪水に引湯管を流され、多くの難題



坂井量之助 肖像画 (坂井銘醸に展示)

た。傾く家計のため九州の炭鉱事業をはじめようと現地向かう途中で急性肺炎を発症し引き返すも長野赤十字病院で、急逝した。明

明治31年、9月の大洪水で戸倉温泉は流失し、その復旧のため「戸倉温泉株式会社」を発足させた。この水魔から源泉を守り、千曲川右岸の宇大西地籍(今の白鳥園付近)まで引湯して戸倉温泉を再興した。明治36年、ここに「清涼館笹屋ホテル」を開業した。ホテルという名称は新しい時代の息吹であった。

治38年2月、量之助は46歳の若さであった。遺族には大きな負債が残された。一方で、地域の発展を願った量之助は、戸倉村の興隆のため坂城屋代間に戸倉停車場を招致するため請願を繰り返した。戸倉温泉の開湯はこの活動に大きく貢献した。明治45年2月、戸倉駅が開駅した。量之助の死去7年後のことである。駅への取り付け道路は坂井家の土地であった。

昭和31年、千曲川左岸堤防上に「温泉の開祖坂井量之助翁頌徳碑」が建立された。

参考・引用文献 柳沢和恵「温泉の開祖坂井量之助翁」 坂原良一・坂井永一「坂井修一翁伝」 資料提供 坂井銘醸酒造コレクション 戸倉 竹内長生



坂井量之助翁の碑 (戸倉温泉堤防上)

公民館報

ちくま

No. 74 2020.6.1 長野県千曲市



主な掲載記事

- 分館長さんに聞きました..... 2
分館長の紹介..... 3
公民館人事・公民館に期待すること..... 4
特集記事(わがまちの自慢)..... 5
サークル紹介..... 6
リレーエッセイ..... 7
もっと知りたいふるさと..... 8

こいのぼりと元気に遊ぶ子どもたち
新緑が美しく、風が心地よい初夏が訪れました。新型コロナウイルスで社会は様々な影響を受けていますが、稲南山原保育園の園児たちは元気に泳ぐこいのぼりの下で、元気いっぱい身体を動かしていました。新型コロナウイルスをやっつけよう!

特集 わがまちの自慢

もっと知りたいふるさと

75

八幡代地区の曳き屋台と花屋台

八幡の代地区に古くから伝承される曳き屋台が保存されていることをご存じでしょうか。

仲秋祭（9月14日）と代地区が当番の時の大頭祭（12月10日から14日）に、代地区曳き屋台保存会「雲井連」の花屋台と共にお囃子を奉納しております。

雲井連とは代地区にある橋の名称「雲井橋」からきております。

花屋台とは後に紹介しますが、曳き屋台が古く修理が必要なこと、運搬出動が大変なので代わりに奉納している屋台です。

さて曳き屋台については今から320年程前より代地区が鎮守の武水別神社八幡宮の仲秋祭、新嘗祭の「練り物」として奉納されてまいりました。今の曳き屋台は天保11年に



お囃子の奉納

建造されたと古書により判明し、製作費用は20両3分3朱と伝えられています。柱はカヤの木でつくられ、彫刻類は豪華です。さらに歴史ある古い曳き屋台は東筑摩郡麻績村へ売り渡してしまつたとのこと。

舞台築屋には太鼓2人、大鼓1人、笛2人、三味線2人、鼓1人、唄1人、都合9人、舞台には踊り子2人、踊り子は8才位から15才までの少女を選び、明治19年まで盛大に続きました。やがて時勢により人形を飾ることになり、昭和4年まで43年間続きました。

昭和4年まで43年間続きました。翌年、曳き屋台の奉納をやめることになってしまいました。なぜなら、武水別神社の新しく作られた中鳥居が以前より小さく建設されたため、曳き屋台は鳥居の下を通り過ぎなくなつたと聞いております。その結果、花屋台（かづぎ屋台）が代替となり戦前まで続きました。

花屋台とお囃子については昭和30年に発足し続けています。花屋台は4ト車に乗せて、その中では大鼓・大胴・大革・鼓・三味線・笛の囃子方が乗



舞台の豪華な彫刻

って演奏します。

昭和31年、八幡宮宮司松田千里氏のご高配により、文部省並びに長野県文化財専門委員による重要文化財としての調査がありました。残念ながら舞台・お囃子・楽器等の製作年代等が不詳のため、重要文化財、無形文化財の指定には至りませんでした。地方の文化的価値は充分あるものとして高く評価されました。

囃子方の養成は明治35年から18才になると習つたと聞いています。また、先代の方々には小川村や、信級等、他の地域からも依頼があり、囃子方様式を伝授に行つたと聞いています。昭和60年、代地区の愛好者

同志が相寄り、舞曲が自然に消滅していく様子を見て、この際永久に後世に引き継ぐべきだと相談を重ねた結果、「代地区保存会」が発足しました。現在、曳き屋台も長老の皆様協力で組み立てられ、公民館の倉庫を改造して保存されています。祭りのたびに組み立てる方法を知る人が少なくなつていきましたので、長老の方々がいなければ完成できませんでした。

令和元年に宝くじ助成金を受けて、花屋台と半纏等を新調して奉納しました。

最後に、昔一農村の集落ながら先人の偉業とご苦労に感謝しつつ、少子化といえども後継者を養成し、大事に継承

していきたいと思います。ご協力を宜しくお願いいたします。

保存会会長

金井良男



「雲井連」の皆さんと新調した花屋台

公民館報

ちくま

No. 75  
2020.8.1  
長野県千曲市



消防避難訓練を行いました

6月24日(水)、居代公民館では会館利用者の皆さんと消防避難訓練を行いました。避難後の消火訓練では消火器の使用方法を学び、火点に向け、本番さながらに消火活動を行いました。

【主な掲載記事】

- 各館の活動報告…………… 2
- 特集 語り継ぎたい わたしの戦争体験…………… 3～5
- 成人講座講義案内…………… 6～7
- もっと知りたいふるさと…………… 8

特集 語り継ぎたい わたしの戦争体験

もっと知りたいふるさと

76

商都 稲荷山隆盛記

はじめに

かつて商業の町として栄えた稲荷山は、いつごろからどのように形成されたのだろうか。また、桑原とともに中山道の洗馬宿から麻績宿を経て善光寺に至る、善光寺街道の宿場としても栄えた。稲荷山城が築城され城下町として次第に町が形成され、在所の産物が集まる要衝として人・物が集まった。

稲荷山城の存在

稲荷山城は天正11年（安土桃山時代1584年）に上杉景勝により築城された。天正10年には本能寺の変が起きている。城主は直江山城守直次で、城の面積240間(430m)×300間(540m)のおよそ2万1000坪(7万坪)であった。



稲荷山城址

三方押ししの城として東側（背に千曲川）を除く南、北、西の三方に出撃できる構えの城（砦）であった。築城とともに城下町が形成され人・物が集まり「市」が立ち、商いが生まれた。

城下は城下割りをして道路・武家屋敷・商家・一般住居などに割り振られた。その境を小路で区切り、城小路・馬出小路・間屋小路・柳小路・閻魔小路・御倉小路・河原小路・寺小路などと呼ばれる小路が張り巡らされた。屋敷割は間口二十四間に決められていた。後々に細分され何分の一かになって今日に至っている。また、人々の拠りどころとして神社・仏閣が創設された。

商家の繁盛ぶり

関ヶ原の戦い（1600年）以降、戦乱の世から解放されおよそ300年にわたる江戸時代に入ると、農民は耕地を開墾し、千曲川の幾多の水害を乗り越えて畑地とした。養蚕が盛んになる前は綿を作った。その綿を桑原・塩崎をはじめ対岸地域からも売りに来た。



明治20年頃の大店の一部 (資料は稲荷山公民館保管)

稲荷山の町には綿を扱う問屋が多かった。その帰りに日用雑貨を仕入れた。町は綿糸を紡ぐ人々や、売買する人々で賑わった。

そして、明治期に入り綿から蚕糸に替わり、養蚕が広まり田畑は一面桑畑が広がった。このころには信州は有数の養蚕県となった。なかでも稲荷山は繭問屋が十数軒と類を見ない特異な商業地として活況を呈していた。郵便局開設明治5年、稲荷山銀行設立（同13年）、後の六三銀行が開設され町並みも整えられた。明治20年の稲荷山は、全盛期で商家（大店）は113軒を数えた。

また生糸・繭・蚕種などの「蚕業」の他に呉服屋・小間物屋・医院・酒屋・割烹・旅館・料理屋などがひしめき商業の町として栄えた。

しかし、明治29年の国鉄篠ノ井線の着工は、広大な商圏を擁した稲荷山に大打撃を与え、明治35年に塩尻まで鉄道が開通した数年後には売り上げが落ち込み、次第に稲荷山の活気は下降線をたどることとなった。

参考資料

- 『稲荷山四百年の歩み』
『更科埴科地方歴史年表』

【付記】

縁あって稲荷山公民館に勤務し地域の方々と親交を結ぶ

中で、かつて商業の町として繁栄を築いた稲荷山の隆盛を知る良い機会と思ひ拙文を記した。ご笑読いただければ幸いです。
稲荷山公民館長 中山洋一



昭和初期の稲荷山の町並み

公民館報

ちくま

No. 76
2020.10.1
長野県千曲市



人生の先輩に聞きました

8月30日(日)、戸倉公民館で「敬老の日記念事業」として80歳を迎えられる方の記念写真撮影を行いました。撮影に来られた方の中から戸倉上山田中学校生徒会が敬老インタビューを行いました。

【主な掲載記事】

- 各館の活動報告..... 2
特集 8月からスタート！ 公民館講座・事業の紹介..... 3～5
サークル紹介・わがまちの自慢..... 6
リレーエッセイ..... 7
もっと知りたいふるさと..... 8

特集 8月からスタート！
公民館講座・事業の紹介

もっと知りたいふるさと

77

埴科古墳群 長野県史跡 土口将軍塚古墳

古墳は全国に多数あり、古墳の所在する土地の地名をつけて呼ばれているのが一般的です。

土口将軍塚古墳は、千曲市土口地籍と長野市松代町岩野地籍の境界上にあります。

昭和41年、藤森栄一著『日本の考古学』において「土口将軍塚」と紹介されて以来、「土口将軍塚古墳」と呼ばれるようになった古墳時代の有力者のお墓です。

昭和57年から61年にかけて、長野市・更埴市(現千曲市)の共同で発掘調査が行われました。調査の結果、墳丘は全長67・7メートルで、後円部の直径は40・5メートル、高さ8.1メートル、前方部の最大幅は30・5メートル、高さ3.9メートルです。



土口将軍塚古墳の説明板



標柱

森将軍塚古墳(市内屋代・森地籍、全長100メートルの前方後円墳)と同じ形の前方後円墳で、墳丘は2段に土を盛り上げ、墳丘斜面の中ほどに「中段テラス」と呼ぶ平坦面が設けられていました。この中段テラスや墳丘の裾には、円筒埴輪や朝顔型埴輪が並べられています。埴輪には、表面を板状の道具で叩いて整える特徴があり、朝鮮半島から伝わった土器の須恵器作りの技術との関連がうかがわれています。朝鮮半島でも、同様の叩き目を持つ埴輪が見つかっています。

また、墳丘には葺石の一部が確認されているので、築造当時は全体に葺石が施されていたものと思われます。後円部中央には2基の堅穴式石室が見つかりましたが、ほとんどは

盗掘により持ち去られていました。見つかった副葬品には、鉄鍔(鉄製の矢じり)や「三角板革綴短甲」と呼ばれる鉄製の鎧の一部などの武器、滑石製の白玉や、ガラス製小玉などの装身具、「土師器」と呼ばれる土器などの破片があります。

古墳の形や堅穴式石室の構造、見つかった副葬品、墳丘の埴輪などから倉科将軍塚古墳(市内倉科地籍、全長82メートルの前方後円墳)に続く、5世紀前半の築造であることがわかりました。

この土口将軍塚古墳は、昭和48年長野県史跡に指定され



岩野側から見た古墳の全景

ていきましたが、市内の前方後円墳の調査により平成19年に、森将軍塚古墳・有明山将軍塚古墳・倉科将軍塚古墳・土口将軍塚古墳の4基が「埴科古墳群」として国の史跡に指定されています。

この土口将軍塚古墳へは、土口古大穴神社から登る道のほかに、岩野から登る道もあり、それぞれ地元の方々により見学路の整備が行われていますが、土口側から登る道が歩きやすくなっています。

土口将軍塚古墳に埋葬された有力者は、どこのムラの有力者だったのか、実際に登って想像してみたいかがでしょうか。

屋代公民館長 安藤秀一



土口将軍塚位置図

公民館報

ちくま No. 77 2020.12.1 長野県千曲市



「岡本太郎」を体験しよう!

10月4日(日)、戸倉公民館では「無脊椎動物を粘土でつくる講座」を白鳥園広場において開催しました。

創作に入る前に岡本太郎美術作品の「無脊椎動物」について、戸倉公民館専門部の学習部長さんから学びました。

特集 公民館講座・事業の紹介 続報

【主な掲載記事】

- 各公民館の活動報告..... 2
特集 公民館講座・事業の紹介 続報..... 3~5
サークル紹介..... 6
リレーエッセイ..... 7
もっと知りたいふるさと..... 8

もっと知りたいふるさと

78

宮内墨齋翁について

皆さん、水墨画家の宮内墨齋をご存知ですか？

宮内墨齋は、文化8年（1811年）1月8日、現在の千曲市中区中村神社の神主、能登正政辰の嫡男として生まれました。

幼少の頃より絵画を得意とし、戸倉の宮本虎杖庵八朗や上州富岡の佐藤墨溪らに師事しました。さらに、切磋琢磨せんと師を求め、宮内家の隣人で墨齋の名付け親である飯島淳子翁に伴われ上京。当時の画壇の大御所である谷文晁の門を叩きました。

文晁は墨齋の筆画を試したところ、既に一家を成しているとは非常に高く評価し、墨齋はその名を世間に轟かせました。



寒山拾得図 軸（徳応院蔵）

長じて、父の神職を継ぐ傍ら、ますます画墨の道に没頭し、修業の旅に出ることも度々ありました。郷里に落ち着くと、この地に「画遊楼」を開きました。

「画遊楼」は、中村（千曲市中区）の公民館が建設されるまで、「倣千館」または「倶楽部」などと称して村人の教養文化の向上のため交流の場として使われてきました。門人を始め村人や近郷の人々と共に風雅の道に遊び、その墨齋の教えを受けて創立された「天狗会」は今も続いています。

墨齋の水墨画の画題は、室町水墨画の伝統を踏まえた山



虎溪三笑図 六曲一双屏風（部分）（徳応院蔵）

水人物画、神仙図等が主に描かれています。墨齋の作品は中区を中心に多くの家に残されていて、中でも徳応院所蔵の「寒山拾得図」は逸品と言われています。

墨齋は奇しくも佐久間象山と同年生まれです。幕末の動乱の時代を2人は生きたことになりません。時代の真つ只中に向かつて進み、非命の人として倒れた象山と、むしろ世俗の喧騒から遠く離れ桃源郷のごとく水墨画の世界に遊んだ墨齋。象山に遅れること3年、墨齋は明治元年（1868

年）2月22日にこの世を去りました。享年57歳でした。墨齋没後125年を期に有志が集まり実行委員会を組織し、「遺墨展」を開催するとともに記念誌を刊行しました。

その時より28年が経ち、現在は没後153年になります。実行委員としてご苦労した坂口俊雄氏と飯島正章氏の両氏はすでに亡くなっています。墨齋の子孫の宮内武猪氏は、中区の地藏堂墓地にある墨齋のお墓を、現在も大切に供養されています。

このうてなむかしをしのびいとなみの今をば 後の人やしのばん 淳子翁

淳子翁が「画遊楼」の完成を祝った和歌です。いつか後世の人々が、この「画遊楼」で自分たちのことをしのんでくれるのだろうという解釈がなされています。（中 坂口宗正）

【参考文献】

宮内墨齋没後125年記念「宮内墨齋展図録」



墨齋の墓（徳応院地藏堂墓地）

公民館報

ちくま

No. 78  
2021.2.1  
長野県千曲市



字がうまくなりますように…

1月4日(月)、八幡公民館では小学生の書き初め会を行いました。コロナ禍での開催でしたが、3年生から6年生の児童は、20名の応募に達する応募がありました。短い時間の中で、全集中して書き上げました。

特集 第25回更埴地区短詩型文学祭入賞作品紹介

【主な掲載記事】

第25回更埴地区短詩型文学祭  
入賞作品 他……………2～4  
各公民館の活動報告……………5～7  
もっと知りたいふるさと……………8



もっと知りたいふるさと

80

江戸時代の北国街道下戸倉宿

北国街道は北国往還などと呼ばれ、佐渡金銀の輸送路として、東海道・中山道・甲州街道・日光街道・奥州街道の五街道に次ぐ、重要な街道の一つでした。

江戸時代の宿場には宿駅と呼ばれる物流の確認拠点があり、その宿駅制度は徳川家康が慶長5年(1600)に権力を強め、戦国大名の伝馬制度を引き継いで順次整えられていきました。また宿駅は、いざという時、軍事移動の荷物運搬施設や宿泊施設の管理を担わせる役割もありました。

宿場には宿駅の他に荷物を扱う問屋と、旅人の宿泊所として本陣や旅籠屋がありました。また、宿場には人や馬や荷物等様々な物を確認し、次の

宿場へ引き継ぎをする「継ぎ立て」という仕組みがありました。継ぎ立ては、宿場ごとに人や荷物や文書に至るまであらゆる物流を管理していました。

人馬を継ぎ立てる問屋が上戸倉宿には1軒、下戸倉宿には「東の問屋」と「西の問屋」の2軒ありました。また、下戸倉宿には問屋の補助として、馬を操って人と荷物を運ぶ役割である「馬指」(人馬の割り振り役も2人いました。

北国街道では、人足25人、馬25頭を備え置くことが義務付けられており、この役は「伝馬役」といわれました。宿場の伝馬役には3つの仕事がありました。1つ目は人馬の継ぎ立て、2つ目は御朱印状や御証文の継ぎ立ての通信事務、3つ目は旅人の休泊の手配です。



当時の下戸倉宿の場所

下戸倉の宿泊所の数は、安政3年(1856)に記録された絵図によると、総軒数194軒あり、そのうち旅籠屋38軒、茶屋18軒合わせて56軒ありました。旅籠屋は長く旅人を泊めることのないように申し合わせていました。中には、佐渡奉



飯盛女の献灯籠

行・代官所役人・幕府の役人などが利用する「御用宿」も数軒ありました。

なお、御用宿は下戸倉宿と上戸倉宿の収入を公平にするためなのか、「1ヶ月のうち、朔日より21日までは下戸倉宿にて相勤め、同22日より晦日までは上戸倉宿で相勤める」として分宿していました。

また、街道の旅籠屋で旅人への給仕や雑用をして住み込みで働く奉公女のことを「飯盛女」と呼んでいました。

現在の下戸倉宿は国道18号線に面しており、かつての宿場の面影は殆ど残っていませんが、戸倉小学校の前にある水上布奈山神社境内には、飯盛女の52名の名前と、天保10年(1839)の銘のある灯籠が建てられています。様々な困難な状況でも誇りを持って働いていた飯盛り女の当時の思いが偲ばれますので、お近くにお越しの際は

水上布奈山神社本殿とともに境内の飯盛女の献灯籠もぜひご覧ください。

参考引用文献  
「戸倉町誌第二巻 歴史編 上  
戸倉史談会 坂井辰一郎



水上布奈山神社の境内案内図

公民館報 ちくま No. 80 2021.6.1 長野県千曲市



令和3年度のさわやか教室スタート!

5月10日(月)、稲高山公民館のさわやか教室がスタートしました。第1回はコロナの感染対策を十分に行い、講師に宮原寿美さん(稲高山在住)を迎えて、懐かしい音楽に合わせたタオルを使った軽運動などを行いました。

特集 わがまちの自慢

【主な掲載記事】

- 分館長さんに関きました..... 2
分館長の紹介..... 3
公民館人事・公民館に期待すること..... 4
特集 わがまちの自慢..... 5
サークル紹介..... 6
リレーエッセイ..... 7
もっと知りたいふるさと..... 8